

講演会

子どもにやさしいまちづくり 日本、ドイツ、沖縄



2025年5月7日(水) 19時~20時45分

会場：沖縄県総合福祉センター 501 教室 (那覇市首里石嶺町 4-373-1)

参加費：無料

(当日の来場で参加可能ですが、準備の都合上、メールで事前申し込みいただけると幸いです)

主催：子どもにやさしいまちづくりフォーラム

問合せ：清水肇 (琉球大学、shimizu@cs.u-ryukyu.ac.jp)

木下 勇

(千葉大学名誉教授、日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり事業委員会委員長、こども環境学会会長)

「子ども参画の子どもにやさしいまちづくり~世界の中で日本の現状、ドイツの展開の背景」

Dr. ハイデ・ローゼ ブルックナー Heide-Rose Bruckner

(「子どもにやさしい自治体協会」創設者 初代所長 現上級顧問)

「ドイツの子ども参画の子どもにやさしいまちづくりにおける NPO 等市民団体の役割」

Dr. ハルトムート・ヴェーデキント Haltmut Wedekind

(アリス・ザロモン大学教授 教育学)

「遊びを取り入れて楽しく学ぶ「学びの工房」による子どもにやさしい学校」



ユニセフ「子どもにやさしいまちづくり事業」(CFCI)とは、子どもと最も身近な行政単位である市町村等で、子どもの権利条約を具現化する活動です。

その特徴は、“まち”の人々がみんなでみんなの“まち”を作っていくこと、とりわけ、子どもをまちづくりの主体、当事者として位置付けることです。

日本でもこの取り組みが始まっています。(参考：日本ユニセフ協会ホームページ)

ドイツでは市民主体のフォーラムが原動力となり、多くの都市でCFCIが取り組まれています。

ドイツの子ども・若者参画のユニセフ子どもにやさしいまちづくり推進のトップリーダーと子ども主体の教育方法(学びの工房)のリーダーをお迎えし、ドイツ、日本での取り組みを学び、沖縄で子ども・若者主体のまちづくりを考える講演会です。



講演者プロフィール

木下 勇

千葉大学名誉教授、工学博士、日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり委員会委員長、(一社)こども環境学会 学会長

東京工業大学で建築を学び、80年代初期よりワークショップによるまちづくりを推進。(社)農村生活総合研究所、千葉大学大学院園芸学研究科を経て、現在にいたる。著書に『ワークショップ～住民主体のまちづくりへの方法論』、『遊びと街のエコロジー』、『三世代が遊び場図鑑』、『アイデンティティと持続可能性』、『子どもまちづくり型録』など。

Dr. ハイデ・ローゼ ブルックナー Heide-Rose Bruckner

ドイツ国内の子ども、関連団体を支援するドイツ子ども支援協会 (Deutsches Kinderhilfswerk e. V. 略称 DKHW) 連邦常務理事 (専務理事) を経て、ユニセフドイツ委員会とともに立ち上げた Kinderfreundlichen Kommune e. V. (子どもにやさしい自治体協会、ドイツの CFCI の推進主体) の初代所長。現在も上級顧問としてドイツにおける CFCI の推進に貢献している。自治体、NPO 等との連携の調整をしながら、子どもの権利の普及、子どもの参画の推進に尽力してきた。

Dr. ハルトムート・ヴェーデキント Haltmut Wedekind

「学びの工房」という理科教育を遊びを中心に子どもが主体的に学ぶ方法を考案して、いまやドイツ語圏のみならず南米や台湾にも広がる。フンボルト大学でその方法を開発し、後にアリス・ザロモン Alice Salomon 大学 (社会福祉の立役者のアリス・ザロモンの名にちなんだ福祉や教育の単科大学) に引き抜かれ、ベルリン市とマルツアーン・ヘレルスドルフ区とアリス・ザロモン大学と学びの工房センターを設立。

こども基本法施行、こども家庭庁発足後 2 年ほどが経過して、子どもをまんなかにおいた施策も地方自治体に浸透してきている頃かと思います。先行して子どもの参画を中心においてユニセフ子どもにやさしいまちづくりを推進していた自治体は先行モデルとして注目されています。子どもの権利条約と持続可能な発展を背景に HABITAT II (1996 年イスタンブール) にて提唱されて始まったプログラムも 30 年近く経て、世界 40 カ国、3000 自治体で取り組まれています。

日本より少し前に始まったドイツも今や 60 都市、2 つの州 (県に相当) で推進されています。その立ち上げからこれまで実質的にドイツにおいてその旗振り役をしてきたハイデローゼ・ブルックナー博士、そして遊びを取り入れた子ども主体の学びの工房という教育方法論の世界的権威のハルトムート・ヴェーデキント博士の両名が沖縄を訪問する機会をとらえて、ドイツにおいて子ども・若者が主体的に社会に関わる活気はどのように生まれているのか、我が国、沖縄でのこれからの展開のヒントを得られたらと思います。

とりわけ、ドイツでの展開には日本の NPO に相当する市民活動団体の活動が活発であり、沖縄においても市民団体がフォーラムなどで連携して、子どもを真ん中においたとりくみの推進のきっかけともなればと期待しています。(木下 勇)